

陳情書

近年急増する香害の実態調査及び啓発活動についての陳情


2019年9月3日

大田区区議会議長
塩野目 正樹 様

陳情者

住所： 

氏名： 

電場番号： 

<陳情の趣旨>

芳香性を強調した製品が拡大した約10年間に、柔軟剤・合成洗剤・消臭スプレーなどによる体調不良を訴える人や、化学物質過敏症を発症する人が急増している。

ある調査によると、化学物質過敏症は全国で推定約100万人、吐き気・頭痛・めまいなどを感じる高感受性は全国で推定700万～1千万人といわれ、人の衣類から揮発する化学物質で体調不良になり学校や職場に行けないケースも増えている。

・大田区立の小中学校で、化学物質過敏症や予備軍の高感受性の児童生徒がどの程度いるか把握するため実態調査をお願いしたい。

・また、教育委員会や各公共施設や区報で、「家庭用洗剤などに含まれる化学物質」について注意と配慮を呼びかける啓発活動をお願いしたい。

<陳情理由>

この約10年間、香りを強調した柔軟剤や、消臭効果を謳う洗剤、消臭スプレーの広がりに伴い、製品の成分で頭痛、吐き気、めまいなど気分を害したり、化学物質過敏症を発症する人が急増している。香りが長持ちする柔軟剤や消臭効果が持続する洗剤等には、特定の成分を包む超微小なカプセル、いわゆるマイクロカプセルが含まれており、イソシアネートやアクリルアミドと言った有害物質が使用されている。

これらの有害物質は、呼吸や皮膚から吸収され、症状としては、

- 粘膜刺激症状（結膜炎、鼻炎、咽頭炎）
- 皮膚炎
- 呼吸器症状(気管支炎、ぜんそく)
- 循環器症状（動悸、不整脈）
- 消化器症状（胃腸症状）
- 自律神経障害（異常発汗）
- 精神症状（不眠、不安、うつ状態、記憶困難、集中困難など）
- 中枢神経障害（失神、けいれん）
- 頭痛、発熱、疲労感

などがあり、発がん性、不妊症、認知症、発達障害を高める可能性がある。

とりわけ大人の2倍の化学物質を吸引する子どもにおいては、健康への影響が懸念される。一度発症すると微量の化学物質で体調を崩すため、安心して外出もできず、近隣の洗濯物、また学校、職場、交通機関などの密室空間では人の衣類から揮発する化学物質の濃度が高いため、学校や仕事に行くなど日常生活が困難になる。

全国ではすでに香り成分の化学物質過敏症により学校に通えなくなった事例が出てきており、大田区立の小中学校で、化学物質過敏症や予備軍の高感受性の児童生徒がどの程度いるか把握し、またいじめなどの二次被害が生じないように、学校現場の先生、児童生徒、保護者の方々に化学物質過敏症について周知を行うことが必要と考える。

労働人口減少が課題となる中、優秀な市民の就学や就職の機会が失われることは、国にとっても大きな損失となりえるので、ぜひ対応をお願いしたい。

ご参考：

・ホームページに「化学物質過敏症」の情報を掲載、ポスター等の制作・配布をしている地方自治体。

宮城県（宮城県、塩竈市、仙台市、多賀城市、富谷市）、埼玉県（埼玉県、東松山市、草加市、三郷市、朝霞市、所沢市、戸田市）、東京都（世田谷区、練馬区、西東京市、あきる野市）、神奈川県（大和市、厚木市、川崎市、鎌倉市、平塚市）、札幌市、長野県安曇野市、山形市、大阪府（大阪市、大東市、和泉市、東大阪市）、千葉県（佐倉市、印西市）、岐阜県岐阜市、香川県高松市、滋賀県（大津市、彦根市）、愛知県岡崎市、愛媛県松山市、奈良県天理市、高知県（南国市）、石川県金沢市 など。

・添付資料：世田谷区、仙台市教育委員会の啓発リーフレット

以上